

迎春



2020.1.17

小股地区に伝わる「かたもち」づくり
今年も良い年になりますように

ぎかい

小国町議会だより 第**143**号

主な内容

- 地域の現状と課題を探る
- 定例会・臨時会
- 一般質問6名登壇
- 常任委員会視察

と課題を探る

小国町議会では地域課題を把握し、町政への反映に取り組むために、議会活動計画に沿った活動として「議会議員と語る会」を開催しました。主なご意見等をお知らせします。

テーマ 「地域課題を探る

～地域団体の現状と課題

～これからの活動予定の把握～

日程等

◆ 10月29日 北部地区

(旧あさひ保育園)

出席議員 伊藤弘行、柴田伸也、安部春美

◆ 10月30日 東部地区

(水源の郷交流館)

出席議員 間宮尚江、遠藤和彦、小林嘉

◆ 11月15日 南部地区

(玉川コミュニティセンター)

出席議員 渡邊重信、盛田信明、小関和好

他にも多くのご意見・ご質問を頂きました。ご意見・ご質問等に対して、各常任委員会で内容を確認のうえ調査を行います。

北部地区の声

北部

空地地運送は地域内だけの利用だが、利用者の本音は、買い物、病院などで利用したいという声が多い。

北部地区の試験的な運行を町全体に広めてほしい。

世代交流会を27回実施してきたが、年々参加者が少なくなっており、対象になっていない人も参加しにくれず悩んでいる。

以前、地域の活性化に詳しい先生などを招いて話してもらったが、現実的な話ではなかった。

学校を会場とした活動が少なくなり、集まる機会が少なくなった。みんなが集まりたいと考えているが、どうしたらいいのかわからない。



町は、何のために学校を現状維持しているのか。

管理組合で修繕はしないので、現状維持だけでは時間が経って朽ち果てていくだけだがどうしていくのか。

地域の現状

東部地区の声 東 部

東部地区には空き家がなく、住みたい人がいても住むことができない。利用されていない児童館（旧叶水保育園）をアパートに改築し活用できないか。児童館は町所有の建物で借りることもできずもったいない。

小国町は地域の学校が地域おこしの核として重要な役割を担ってきた。学校を統合する時に地域づくりをしなかったため、統合した地域は急速に疲弊していると思う。地域総合商社が動き出すと聞いているが、地域も巻き込むべきではないか。

総務課と人口減少の話をした。東部地区は移住者が多いが、町からの支援が少ないのでは。町でも人口増加策と一緒に考えて取り組んでほしい。また、叶水小中学校があることで人口の減少が抑制されているという意見があるが、議会としてどうとらえているか。学校が無くなれば地域が廃れるというのは町全体の課題では。町として方向性を示して欲しい。



南部地区の声 南 部

新潟大学と田植えや雪掘体験などで交流をしている。旧玉川地区の行事として行っているが、足野水地区の参加者がいない。高齢化が進んで参加出来ない事が理由として上げられる。大学生との交流なのでもっと若い人に参加して欲しい。

新潟・山形南部連絡道路整備に伴い、県道の整備及び梅花皮橋の整備について山形県、置賜総合支庁へ要望活動を行っている。小国町、担当課、県議会議員にも相談し、県への要望活動を継続していく。

冬場の道路の除雪はどうなっていくのか不安である。除雪作業員も高齢化する中、県道除雪を依頼される事があるが、自分の家も除雪しなければならぬ。若者が移住や定住しても冬場の生活ができるのか疑問だ。

鳥獣対策について隣の県との差があるのなぜか。



お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。

77万6千円を可決 5473万7千円に

令和元年
12月定例会
12月5日(火)～11日(水)

◆一般会計補正予算の主な内容◆

議会費	議会中継録画機能修繕 ……………	28万円
総務費	ふるさと納税返礼品等 ……………	1,755万円
	移住フェア参加旅費 ……………	58万円
	財務会計システム改修業務委託 ……	91万円
民生費	灯油購入費助成 ……………	275万円
	電動車イス購入費助成 ……………	100万円
	国民年金システム改修 ……………	17万円
衛生費	置賜広域行政事務組合負担金 ……	216万円
	(千代田クリーンセンター発電機修繕等)	
	病院事業特別会計への負担金 ……	8,000万円
観光費	スノーボードイベント開催負担金…	100万円
土木費	台風19号町道施設復旧作業 ……	740万円
	町営住宅修繕 ……………	187万円
教育費	二の宮の湯ポンプ改修工事 ……	324万円
災害復旧費	台風19号林道災害復旧設計 ……	93万円
	林道樽口峠線災害復旧工事 ……	700万円

12月定例会は、12月5日から11日の7日間の会期で開催され、一般会計、国民健康保険事業特別会計、訪問看護特別会計、病院事業会計、水道事業会計の各会計補正予算、条例の設定などが上程され、全て原案どおり可決した。

一般質問では6名の議員が町政の諸問題について質問した。



台風19号の影響で路肩が崩壊した林道樽口峠線

一般会計補正予算総額1億48 一般会計予算総額は64億

◇特別会計補正予算の主な内容◇

国民健康保険事業特別会計

国保情報集約システム利用料 7万円

◆企業会計補正予算の主な内容◆

病院事業会計

医業収益減による一般会計からの繰入金 8,000万円

◆条例の設定◆

●小国町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の設定

地方公務員法の改正により令和2年4月から従来の臨時・非常勤職員等が、会計年度任用職員へ制度が移行するため、その取り扱いについて定める。

●小国町一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の設定

人事院勧告による国家公務員の給与改定に準じた一般職及び特別職の給与等の改定等を行う。

◇債務負担行為の設定

令和2年度から令和6年度までの小国町斎場管理費として。

限度額：4,854万円

◇地方債補正

①追加（災害対策事業債）

林道樽口線災害復旧経費として。

限度額：310万円

②変更（過疎対策事業債）

限度額を3億6460万円から3億6830万円へ。

◇新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出◆

現行の過疎地域自立促進特別措置法は、令和2年度末に失効となります。過疎法は、昭和45年に高度経済成長による過疎化を背景として制定された「過疎地域対策緊急特別措置法」以来、4次にわたる特別措置法の制定により、過疎対策事業が実施され、生活環境の整備や産業の振興に一定の成果を上げてきたところであり、本町においても過疎対策事業債を財源とした各種事業が展開されてきました。

現在は人口減少や、少子高齢化の急速な進行を背景とした集落の消滅や、自然環境の保全や災害の防止など新たな大きな課題に直面しており、当町のような中山間地に住み続ける住民が安心・安全に生活を維持していくことによる役割や機能が維持されることは、国土の形成につながるものと考えます。

令和元年11月15日に本町も加盟している全国過疎対策地域自立促進連盟において、新過疎法制定実現総決起大会が開催され、新たな過疎法の制定に関して決議され、要請活動が行われます。第4次過疎地域自立促進特別措置法の期限にあたり、当議会においても意見書を提出していることを踏まえ、総務厚生常任委員会で協議し、定例会最終日に「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」を提出しました。

豆知識

過疎対策事業債とは、過疎地域に指定された、市町村が法律に基づいて行う事業の財源として特別に発行が認められた地方債です。充当率は100%であり、その内70%は普通交付税の基準財政需要額に算入されることとなっています。



第6回臨時会

◆11月5日に臨時会が開催された。
 経年劣化による町民総合体育館
 外装の改修工事請負契約の締結(契
 約金額8030万円)を可決した。



改修工事が始まった町民総合体育館

第8回臨時会

◆12月23日に臨時会が開催された。
 2名の住民原告から小国町長に対して提起された大字あけぼの地内
 の土地使用許可にかかる損害賠償請求住民訴訟について、専門性の
 高い対応を正確・慎重に行うため、町顧問弁護士へ訴訟代理人を委
 任するとして着手に要する所要額125万円の補正予算が提案された。
 賛成、反対それぞれ1名による討論を行い、起立採決を行った結果、
 賛成議員8名により原案通り可決した。

年頭の「挨拶」



小国町議会議長

高野 健人

明けましておめでとうございます。
 町民の皆様におかれましては、輝かしい初春をお迎
 えのこととお慶び申し上げます。

平成から令和へと新たな時代が幕を開けた昨年は、
 町民に開かれた議会を目指し、「高校生議会」や「議会
 議員と語る会」を開催し、町民との対話をとおり、ま
 ちの活力の醸成、町民の幸せづくりに皆様と共に取り
 組んで参りました。

議会の基本姿勢の礎となる「小国町議会基本条例」
 とこれに基づく活動計画に沿った議会活動に取り組み、
 町民一人一人の声に一層耳を傾け、議会一丸となって、
 行政とともに山積する課題に全力で取り組み、町民の
 付託にしっかりと応えていく所存でありますので、町
 民の皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ
 ます。

今年の干支は「子(ねずみ)」であります。子年は、
 十二支の一番目に「子」がきているように、新しい物
 事が始まる年になるとされております。皆様にとって、
 新たな一年が幸多い年になるようご祈念申し上げ、新
 年のご挨拶とさせていただきます。





町長の政治姿勢と 行財政運営を問う

もり た のぶ あき
盛田 信明 議員

政治とカネの

問題について

盛田 町長は町長選挙に
関し、平成27年及び28年
に合計100万円の献金
を町と請負関係にある会
社の代表者から受けてい
る。この会社はこの時期
に町から2件、合計11
00万円の工事を請負つ
ている。事実であれば公
選法に抵触すると考える
が、町長の認識を伺う。

町長 個人の支援者から
の寄付であり、政治資金
規正法が定める個人献金
の範囲内である。業者か
らの献金の事実はない。

盛田 最近、閣僚、国会
議員もこの問題で公選法

に抵触しなくとも道義的
な責任をとって辞任、あ
るいは献金を返金してい
る。町長は辞任、あるい
は返金の考えはないか。

町長 物事の判断に当た
つてはその都度確認して
おり、責任ということに
ついて私は何らするもの
ではないと思う。

介護施設と 介護保険料について

盛田 介護付き有料老人
ホームが平成31年4月に
整備されるということ
で介護保険料を10.9%、
平均で約7千円増額した
が今もって整備されない。
介護付き有料老人ホーム
は、いつ、誰が、どのよ
うに開所するのか。

また、施設を開所でき
ない場合、介護保険料は
返還するのか。

町長 計画の申請事業体
は「㈱アラマサ」で、報
告では特定施設入所者生
活介護サービス事業の許
可申請を県当局へ提出す
るための準備を進めてお

り、来年秋口の開所を目
指している。

保険料の算定は、計画
期間の全ての介護保険サ
ービスの給付費を推計し
て定めている。

なお「開所できない場
合」という仮定の質問に
はお答えできない。

盛田 9月定例会ではこ
の事業は3事業者が役割
分担して行うという話で
あった。(株)アラマサ以外
の2業者はどこか。

町長 民間が行っている
事業で、これから建築計
可等の申請をする段階な
ので、言えない事案だと
思う。

病院医事業務の外部委 託とおぐに白い森(株) の経営状況について

盛田 町民から病院の医
事業務を町外業者に委託
するとの情報がある。議
事に報告も協議もないが、
その事実関係は。

また、これまで委託し
ていた、おぐに白い森(株)
の経営に大きく影響する

と考えるが、町長の考え
は。

町長 町内からの人材確
保が厳しい状況であり、
安定した医療事務確保の
ため、町外専門業者への
委託を含め検討させてい
る。おぐに白い森(株)とは
協議を重ねており、現行
の契約内容を勘案しな
がら合意形成を図りたい。

盛田 業者は既に選定さ
れたのか。また、社員の
面接を行なっているとい
う事実はあるのか。

病院事務長 検討してい
る段階で業者は決定して
いない。面接に関しては
委託の可能性を相談して
いる業者で、調査のため
行っている。

盛田 今年度のおぐに白
い森(株)への医事業務の委
託料はいくらか。

病院事務長 おぐに白い
森(株)への委託料は、3施
設合わせて約8千万円
である。

盛田 町立病院等の給食
の外部委託2年分で56
50万円、人工透析患者
送迎の外部委託2年半で
約8千万円、さらに医事
業務の外部委託で8千万
円が町外に流出する。町
の財政及び町内経済に及
ぼす影響が大きくなるこ
とを指摘する。

住民監査請求の 結果について

盛田 ボーリング調査が
終了した時点はいつか、
それを特定した根拠は何
か。

代表監査委員 住民監査
請求の要件審査で事実証
明書を確認し、ボーリン
グ調査は3月末日で終了
されていると判断した。

盛田 2月27日付の許可
書では、終了した時に検
査をすることになってお
り、検査復命書の確認が
必要だと考える。

洪水ハザードマップの 新基準への対応は

柴田伸也 議員



新基準の マップ作製を早急に

柴田 昨年の9月、10月の台風では、16都県の河川が氾濫して、記録的な豪雨災害となった。

平成27年の水防法改正に基づいた洪水ハザードマップの公表が対象となる自治体に義務付けられた。

横川ダムや砂防ダム等が整備され水防対策は行われているが、最大雨量が100年に一度から、1000年に一度のレベルまで引き上げられた。新基準のハザードマップ

を早急に作成する必要があり、町長の考えを伺う。

できる限り早く配布したい

町長 昭和42年の羽越水害以来、大きな豪雨災害はないが、平成16年の豪雨では浸水する被害が発生した。

備えに万全を期す必要があると認識している。

横川ダムや112基の砂防ダムが整備されている。また、県管理河川の護岸

や改修が手がけられ、町管理の河川や側溝の整備

改修等を行ってきた。平成27年度には洪水ハザード

マップ、28年度には防災行政無線を整備し、災害

情報を提供し避難誘導等を迅速に行っている。

新基準の洪水ハザードマップについては、小国

町防災会議などの意見を

伺いながら作製を進め、できる限り早く全戸配布できるように努めていく。

柴田 新基準のマップが公表される前に災害が起

こるかもしれない。新たな基準に対応した

情報が分かった時点で速やかに報告する必要があり

と思うが。

町民税務課長 現行の100年に一度をもとに

河川改修工事が行われている。1000年に一度

の規模を想定した場合でも、これまでの対応を大

きく変えるわけではないので、災害が発生した場

合は今まで通りいち早い避難誘導に心掛ける。

マップの周知活用も必要ではないか

柴田 千葉県ではせっかく作ったマップが生かされな

なかった例もある。定

期的に広報誌や防災ラジオ等でマップの確認の連絡をしてはどうか。

より積極的な
広報活動を行う

町長 小国町の場合、ほとんどの場所が土砂災害

避難区域に指定されており、1000年に一度の

基準に基づいた避難場所がなかなか探せない。そ

のため、垂直避難できるような場所について広報

活動をより行っていく必要がある。

柴田 町の公共施設などには避難場所の掲示板等

は設置されているがマップは設置されていない。

また外国人も多く働く町でもあるため、外国語に

も対応した看板等を設置することはできないか。

町民税務課長 人が多

く集まる場所にマップ

を設置することは重要である。現在、町には8か国の外国の方が在住している。居住する地区での

自主防災や勤務先の防災訓練などで指導してい

ただくことが有効であると考えており、そのため

の活動も行っていきたい。看板等の設置につ

いては防災会議に図り検討する。

柴田 いつどこで起きてもおかしくない災害。被害を最小限に抑えるため

にも、新基準に対応した洪水ハザードマップの早期整備に力を入れて頂

きたい。



現在配布されているハザードマップ



◆危険度の高い空き家の対策は ◆無形文化財の振興を

間宮尚江議員

危険度の高い空き家対策とゲストハウスの効果は

間宮 試験的事業である「ゲストハウス」は関係人口増加、空き家利活用を目的としているが成果と今後の展開を伺いたい。更に、依然増加傾向にある危険度の高い空き家対策にどのように取り組んでいくのか。

適切な管理が行われていない空き家に対して講ずべき措置を検討する

町長 ゲストハウスの利用状況は、これまで36日

間、延べ42名の方が利用された。大学生の地域行事への参加、農業インターンの移住体験、町内事業所の就職受検時等に利用された。今後とも地域交流や、地域行事への参加等の促し、他地域に居住しながら小国町で活躍する「協働人口」の拡大に結び付けたい。

29年度の空き家の現状と実態調査の結果、空き家と判断された78件を対象に今後の意向調査を行い51件からの回答を得た。その結果、空き家と回答したのは26戸、解体、売却、貸家を考えているのが18戸、現状維持が8戸と報告された。現在は定期的なパトロールを行っている。今後も実態把握に努め適切な管理が行われていない空き家に対しては講ずべき措置を検討し、適切に対処したい。

間宮 国交省および総務省のパブリックコメント

トに対する回答では「使用がなされていないことが常態である建築物は、店舗および工場等も空き家の対象となる」とされている。

沼沢地内の旧工場地について、国道113号の景観、また倒壊等の危険性もあると考えるが、対応についてどう考えるか。

町民税務課長 工場内の残財等も含め県の管轄となっている。県の立ち入り調査の際に町も立ち会っているほか、引き続き所有者に対し文書による改善通知を行なっていきたい。

間宮 沼沢地区では、2015年に豪雪により住宅が倒壊するという事案もあった。そういった危険性もあることから、十年以上もの長期に渡り不安にさらされてきた周辺住民の方が安心して暮らせるよう早急な対応を

望む。

古田歌舞伎を観光振興策の一つの柱とすべき

間宮 舟渡獅子踊り、古田歌舞伎は本町の重要な無形文化財と考える。古田歌舞伎は協力隊の若者や町内の若者も演者として携わっている。本町文化財の価値を再認識していくとともに、観光振興策の一つの柱としての広がりを図るべきではないか。

白い森まるごとブランド戦略の一環とする

町長 古田歌舞伎公演には町外からの観客も多数来られるので、観光の一翼も担っていると考える。町としても広報、ホームページやフェイスブック等を活用して、それぞれの開催にあたり、文化財の持つ価値を含め、情報発信に努めている。本町が育んできた貴重な文化財を白い森のブランド資

源として高く評価し大切に保存して後世に引き継ぐための取り組みを展開している。

本町の豊かな自然や文化を愛する心を育てる

教育長 古田歌舞伎、舟渡獅子踊りは保存会が組織され、文化財の持つ意義と価値を地域の方々が大切に守り後世に伝えていくこととする強い意志と覚悟のもと、継続的に公演を重ねてきたと認識している。今年度は小国小学校四年生が古田歌舞伎伝承館で伝統を学ぶ場面をつくった。今後も関係課と連携し、町内の文化財の周知や身近に感じていただく取り組みを展開していく。

選挙公約は怎么样了か

こせきかずよし
小関和好議員



公約は町民との約束

小関 町長の任期も残すところ7ヶ月あまりとなった。選挙の際の公約は、町民との約束と思われる。その進捗と今後の対応を聞く。

選挙公約

- 若者が定住できる仕事（雇用）をつくります。
- 小国町立病院の運営を安定化し地域に密着した医療を進めます。
- 病児保育を整備します。
- 循環バスは継続し地方部への運行を増やします。
- 高齢者の入居施設を増設します。
- 道の駅を再構築します。

● アスモと道の駅からブランド発信。

雇用の確保、定住施策の構築等を行っていく

町長 町内中核企業を中心に、企業との連携を密にし、就労環境の構築に3年間、精一杯取り組んできた。今後も、小国町の持続的な発展に向けて企業と連携しながら仕事や雇用の確保、必要な定住施策の構築、多面的な交流の促進を図っていきたい。

運営の安定化と地域に寄り添った病院づくりに取り組む

町長 関係機関に足を運び医師の確保や研修医の受け入れなど積極的に高い協力関係にある病院との強いつながりを堅持してきた。

経営面では、人口減少等により収入が減少しているが、「地域包括ケア病

床」を増やすなど収入確保策を講じるとともに管理費の節減などの支出抑制に取り組んでいる。

今後も「地域に寄り添った病院づくり」に取り組んでいく。

利便性の高いバス運行に努める

町長 高齢化、過疎化が進展する中で、公共交通など町民の足をいかに確保するかは重要な課題であると認識している。今後は、利用実態や地域構造の変容などを踏まえながら、より利便性の高い町営バスの運行体制の確保に努めていく。また、平成29年から行っている北部地区での空白地運送支援事業が今年度実証期間を終了することから、内容を精査し、他地区での運行の可能性も含め検討していく。

民間による高齢者の入居施設の整備に期待

町長 「さいわい荘」は、9月末で87人の待機者がいる。町外施設には67人が入所している。町内における高齢者の入居施設には高い需要があると考えている。数社の民間事業者が連携し、事業計画されている介護付き有料老人ホームが来年秋に開所できるとの報告を受けている。町としても事業認可に向けて支援を行い民間の力に期待をしている。

道の駅の公園化を目指し活性化を図る

町長 公衆トイレの改修、W i f i 環境の整備、照明のLED化、レストランの改修等機能強化に努めてきた。昨年度は、直売所をリニューアルし、本年9月にグランドオープンした。11月末で客数が5万人を数え昨年度比20%増である。今後も道の駅全体の公園化を目指し、より魅力的な道の駅として活性化を図って行く。



グランドオープンした直売所



公の施設の運営の方向性は

こばやし よしみ
小林 嘉 議員

指定管理の現状は

小林 公の施設の管理運営に係る指定管理者の再指定手続きが来年度に予定されている。現在の指定管理施設の現状はどのようなになっているのか。

観光交流施設は十三施設

町長 公の指定管理については、民間のノウハウを導入し、より効率的、合理的なものとするため、地方自治法が改正され制度開始となり、当町では平成十六年度から導入し、現在では、三十三施設が指定管理者により、管理



NPO法人指定管理の「あいべ」

運営をしている。指定管理している施設は、

生活関連 1施設、
集会関連 17施設、
体育関連 2施設、
観光交流関連 13施設
となっている。

観光交流施設及び体育施設は、第三セクターおぐに白い森(株)、NPO法人、地域の自治組織等を指定管理者としている。

おぐに白い森(株)が指定管理の施設の運営状況は

小林 おぐに白い森(株)が指定管理としている施設の利用状況や運営状況はどのように認識しているか。

代表施設「梅花皮荘」は、老朽化が顕著

町長 おぐに白い森(株)が管理している「梅花皮荘」を代表例として説明する。建築から約四十年経過し、施設の老朽化が顕著になり、観光ニーズの多様化などで、利用者は減少傾向にある。昨年度リフォーム調査の結果、耐震補強も含め、新築する場合と同程度の経費が必要であることが分かった。

今後、改築も含め、その整備手法の検討や財源の確保等、早期に取り組むべき課題が山積している。

再指定に当たっての方向は

小林 再指定にあたって施設運営の方向性はどのように。

温泉や観光資源を活かし、磨きをかけて運営できる団体を指定したい

町長 歴史ある飯豊温泉

の湯があり、山菜や岩魚に代表される食文化やマタギの文化、飯豊連峰をはじめとする雄大な自然と森林セラピー基地の癒し空間等、観光資源に恵まれた環境にある。それらを活かし、磨きをかけて運営していただく団体と指定管理制度に基づき協定を締結したいものと考えている。



おぐに白い森(株)が指定管理の「梅花皮荘」

◆高規格道小国道路の今後の進捗は ◆町長再選に向けての考えは

あ べ はる み
安部春美議員



小国道路の今後の進捗は

安部 小国道路は今年3月に新規事業化も決定した。命の道、産業活性化のため必要性の高い高規格道として建設される道路である。

現在の国道113号は迂回路が無いため、大雨で土砂崩れや雪崩等が発生すると通行止めになり孤立する。東北地方の物流面、人的交流面にも大きな影響を与えてしまうことから、今後も早期完成に向けて積極的に運動を展開しなければならぬものと思うが、町長の

考えを伺う。

強力な促進活動を進めていく

町長 地域高規格道路として計画路線の指定を受けたのが平成6年8月であり、小国道路が調査区間に指定されたのが平成11年12月である。ようやく

念願の町内路線が具体化し、建設実現に向けて大きな一歩となった。今後も期成同盟会の会長として、会員市町村長とともに、国土交通省、財務省をはじめ東北、北陸両整備局、山形、羽越両河川国道事務所、山形県、新潟県選出国会議員に建設促進の要望を精力的に展開していく。

町内のアクセスは

安部 町内のアクセス道路はどうなるのか。

インターは2ヶ所の設置が計画されている

町長 アクセスとしては

県道五味沢小国線大宮付近に（仮称）小国インターを、町立病院に近い岩

井沢麻枯沢（おがらしざわ）線付近に（仮称）岩井沢インターが整備される計画である。また、道の駅、赤芝地内の県道梅花皮橋へのアクセスは現時点においては具体的な方針にまで至っていない。梅花皮橋の通行については

は支障をきたしているため、町の重要事業要望に取り上げ、地域の皆様と改善に向けて県当局に相談している。

来期に向けての

考えは

安部 町長に就任して3年半が経過した。来期への考えを聞く。

引き続き立候補する決意を固めた

町長 平成28年8月町民の皆様の温かいご支援とご支持をいただき、町政運営を担わせていただいた

から1期4年の任期満了を迎えようとしている。本町を含む全国の農山村地域では人口減少の加速、担い手不足の深刻化、公共施設等の老朽化や統廃合、農地森林、住まい等の管理など取り巻く環境が大きく変化している。山積する地域課題に対処

するため、第五次小国町総合計画を取りまとめたところである。
私は、町政運営の継続性の重要さを感じており、引き続き舵取りを担うことが、ふるさとのためになると判断し、立候補の決意を固めた。



小国道路の建設が予定される町中心部の全景



中央要望のようす

交流会・研修会

小国町・関川村議会議員交流会

◆ 期 日…令和元年10月4日
◆ 会 場…関川村役場

女川地区圃場基盤整備事業の概要及び進捗状況について説明を受けた。地域が一体となった共同作業をすることで農村が活性化し、若者に選ばれる地域を目指すなど今後の方向性を伺った。大型区画や自動給水設備を設けるなど、作業効率の向上と労力の軽減を行っていた。

第4回 西置賜地区市町議会

連絡協議会 定例総会

◆ 期 日…令和元年10月7日
◆ 会 場…飯豊町いいで旅館

「森林環境譲与税の活用について」の説明を受けた。森林経営管理制度による間伐手遅れ林の解消・伐採後の再造林が促進されることで、土砂災害の発生リスクが低減するなどの説明を受けた。



置賜地方町村議会議長会議員交流会

◆ 期 日…令和元年10月9日
◆ 会 場…川西町農村環境改善センター

「メディカルタウン整備計画」の説明を受けた。置賜総合病院の周辺に整備され、定住人口4000〜5000人を目指し雇用創出による所得の増加など、安全で健康に暮らせる街づくりに向けて取り組んでいることなどの説明を受けた。

◆ 令和元年度 小国町議会議員研修会
◆ 日 時…令和元年11月20日
◆ 会 場…小国町役場

新潟県立大学国際地域学部田口准教授を講師に迎え「政策の立案と実現に向けて行動」議会の責任と行動」をテーマに、議会の活動の原則や、政策提言へ向けた取り組み等について研修会を行った。



報 告

◆ 全国町村議会議長会
創立70周年記念特別表彰
米野貞雄 前議員 受賞
(議員歴32年)

視察研修レポート

文教産建常任委員会視察研修報告

令和元年11月12日～14日



秋田県井川町

「義務教育学校について導入の

経緯と取組内容、課題等」

10年ほど前から井川小学校、中学校の一貫校化に向けた検討を重ね平成30年4月に開校した秋田県内初の義務教育学校である。すべての教員が小中学校の教員免許を取得しており「6・3制」ではなく1年生～9年生（中学3年）の学年とし、子供の成長に応じたきめ細やかな指導が可能となった点や「開校が終わりではなく、今でも挑戦が続けている」という校長先生の言葉に情熱が感じられた。井川町の試みは同様の課題がある本町教育にも参考とすべき多くの教訓を頂いた。

岩手県西和賀町

「特産品開発について西和賀町に

おける取組内容と課題等」

西賀町ではわらびの生産だけでなく、生産物の6次元化に取組み時間・労働・お金も掛かる大変さが分かった。地域資源を活用するために改良や研究を重ね、良い物を地域で作るその取組みに感動し交流から支援する方が出てくる事だと思ふ。西和賀町の取組みを参考にして地域の仕事の創出に繋がる取組みが必要だと感じた。

岩手県遠野市

「道の駅遠野について

整備方針・利用状況と課題等」

「道の駅遠野風の丘」は70名の生産者で構成された出荷組合のほか、地域の方が料理を提供する、企業組合「夢咲き茶屋」、三陸から毎日魚介類が入荷する「漁師の魚屋」など復興支援も行っている。海・山の物が豊富に取り揃えられ、岩手県内の道の駅で共通の新商品を開発したことや費用をかけずに人の集まる仕掛けを行っていたことが印象的だった。地域のコミュニティや防災の拠点、そしてトイレの美化活動に力を入れるなど、また行きたいと思える道の駅づくりに繋がると感じた。

総務厚生常任委員会視察研修報告

令和元年11月6日～8日

4年前に烏山市が行った公共の担い手育成事業をきっかけに立ち上げられた団体で、若者が市民主体の持続可能な街づくりの推進に向けた活動を行っている。空き店舗を活用して若者の居場所づくりや観光客の地域への愛着を育むなどの推進に向けて活動を行っていた。小国町においても地域の活性化という点では住民が主体となった地域づくりの活動として、参考になった。

栃木県那須烏山市
特定非営利活動法人
「クロスアクションの活動」



平成22年からみどり市において基本料金1km100円としながら、東町内及び桐生市の診療所までの移動は個人負担を片道300円往復600円としそれを越えた部分を市が負担する300円対応を行なっている。当町においても空白地実証運行を行っているが利用できる範囲が限られている。アスモまで行きたい、病院まで行きたいと要望が出ているので北部地区内に留まらず町中心部や町外までの移動についても利用しやすい制度を検討する必要があるのではと感じた。

群馬県みどり市
「公共交通空白地有償運送」



高齢化率50%以上の集落を対象に生活の安心安全の確保等のために必要な共同作業に対するボランティアを市が募集し「お互いさま」「おかげさま」の精神で作業支援を行う事業を実施している。小国町でも高齢者の一人暮らしが多く、安心安全を図るうえで共助の意識向上が必要と感じた。地域の若い方のみならず、都会の学生やふるさと納税者の方にも協力して頂く取り組みが必要と考える。

また交流人口にも繋げることで事ができる取組みではないかと感じた。

新潟県系魚川市
「系魚川市地域
生き生き集落サポーター事業」



おくにでがんばってます



プロフィール
岩井 拓磨 (いわい たくま)
年齢 24歳
出身 和歌山県紀の川市
趣味 プラモデル

重信 今回は地域おこし

協力隊の岩井琢磨さんと小股地区に伝わる伝統行事「かたまち」(ごはんをつぶした餅)づくりに参加してきました。参加しての感想は？

岩井 「かたまち」の名前

をはじめて聞きました。驚地区より北方面での活動は初めてなので新しい発見と面白さがありました。



像以上の田舎体験ができています。

重信 新年の抱負は

岩井 広い小国町もっと深く知っていく活動をしていきたいです。

重信 小股地区老人会の皆さん、岩井くんありがとうございました。



新年あけましておめでとうございます。令和初の新年号、めでたいので小国町小股地区の伝統郷土料理「かたまち」をご紹介します。長く住んでいる小国町ではありますが、まだまだ知らない文化があり、岩井くんに負けずに私たちも小国町の町民の皆さんのところに深く入り込み、声を聴いていける議会体制を創る一年にしていきたいと思います。 渡邊(記)

発行責任者

議長 高野 健人

広聴広報常任委員会

委員長 小関 和好

副委員長 伊藤 弘行

委員 渡邊 重信

柴田 伸也

間宮 尚江

小林 嘉

編集後記

次は3月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62)2448